




題字 秋田師山書

第 103 号
 秋田市手形学園町1-1
 秋田大学教育文化学部
 同窓会旭水會 内
 令和6年7月27日 発行
秋田県退職校長会



原点を「綱領」に見て

秋田県退職校長会 会長 伊藤 栄 二

この度の総会で、会長に就任いたしました伊藤栄二です。もとより、自分がその器でないことは重々承知しているのですが、任を引き受けた以上は、誠心誠意務めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

私はこれまで、現職時代や退職後の教育懇談会の中で、素晴らしい教育実践や卓越した学校経営をなされ、秋田の教育の歴史にその名を残した歴代会長をはじめ、大先輩の先生方から直接貴重なお話を伺う機会があったことを、とても嬉しく思っています。

また、退職校長会に関わって十年になりますが、その間四名の偉大な会長の下で仕事に携わることができたことを、大きな誇りに感じております。

高橋一郎前会長は、物事を詳細に分析し、緻密な計画を立てて課題解決を図っておられました。佐藤俊彦元会長は、明るいユーモアのある話題の中に、教育の核心を埋め込んで、常に鋭い「問い」を投げかけておられました。千葉昭元会長は、だれとでも広く親しく交わる懐の深さをもって、役員や会員とともに歩んで来られました。佐藤重義元会長は、いつもエネルギーがシユで、困難をものともせず、先頭に立って役員や会員を強く引っ張る強烈なパワーを持っておられました。(個人的な私見を述べている失礼をお許しください)

私は、どの先生の足下にも及ばないのですが、そのような中でも、幸いにして各郡市の会長をはじめとする役員の皆様は、どなたも素晴らしいお力のある方々ばかりですので、お力添えをいただきながら、全力でその責務を果たしてまいれる所存です。

ご存じの通り、県退職校長会という組織は、各郡市の連合機関であり、主体はあくまでも各郡市それぞれの会ということになります。その上で、県退職校長会としての崇高な共通理念が、令和元年制定の綱領に5項目掲げられております。どれも重要なものばかりですが、まずは三番目にある親睦や交流を深めることを大きな柱としながら、私ども役員は、そこにある理念の具現化に向けた調整役であると理解しております。

昨年度は、本会の事業や活動が、コロナ禍からようやく復帰し始めた一年であり、主要行事である理事会・総会、会長・事務局長合同の会及び秋季研修大会を対面で開催できたことは、誠に喜ばしいことでありました。今年度は、さらにこれまで足踏みをしてしまった分を取り戻しつつ、各郡市の皆様とともによりよいアイデアを模索しながら、県退職校長会のさらなる充実・発展に取り組んでまいりたいと思っております。

皆様のますますのご発展とご健勝をお祈りいたしますとともに、県退職校長会へのご支援・ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

秋田県退職校長会 綱領

われわれは、秋田県退職校長会結成以来の歴史や活動を継承し、本県の教育の将来を見定め、会員としての自覚と誇りをもって、ここに綱領を制定する

- 一 教育尊重の気運をあげ、秋田教育の振興に寄与する
- 一 生きがいをもって生涯学び続け、充実した生き方を実現する
- 一 会員の親睦を図り、福祉の増進に努める
- 一 地域の教育・文化の向上や、良好な環境の形成に尽力する
- 一 関係機関、団体と連携・協力して、活動の発展を図る

令和元年十月十二日(結成五十周年)制定

ややもすると世の大人たちは「今の子どもは：」を口にすることが多い。大抵は以前と比べて今の子どもが劣っていると思われる点を指摘する場合に用いているようだが、果たして今の子どもには劣っている点が多いのだろうか。本稿では私が日頃「今の子どもは優れているなあ」と感じている点について、そのいくつかを挙げてみたい。

その一つは、人前で臆することなく堂々と自分の意見や考えを話すことができる子どもが以前よりも多くなったということである。数年前から人権擁護委員として小学校での人権の花の植栽運動や小・中学校での人権教室に参加させてもらっているが、そこでの子どもたちの発言にはいつも感心させられる。花を植栽しての感想や人権について考えていることを自分の言葉でしっかりと伝える子どもがたくさんおり、子どもたちの話す力の高まりを実感している。コミュニケーション能力の育成を重点として取り上げ、継続的に取り組んできた本県学校教育の大きな成果と言えるのではないか。

現職当時から感じていることであるが、学校生活において男女平等感が浸透しているということも、今の子どもの優れている点である



ひとこと

「今の子どもの優れている点は」

秋田県退職校長会
常任理事 佐藤 敬 顕

ると思う。児童会活動や生徒会活動では、以前よりも多くの女子児童生徒が役員として活躍しているし、各種の学校行事や部活動、毎日の清掃活動等においても、男女がそれぞれの特性を生かし、協力して取り組んでいる姿を見ることが出来る。男女共同参画社会の実現が叫ばれて久しいが、近い将来、学校教育での成果が大人社会においても結実することを願っている。

近年、日本の子どもたち（若者たち）が、様々なスポーツ大会において世界レベルの活躍をしていることも優れていることのひとつと思う。オリンピックや世界選手権大会において、10代のメダリストが多数誕生している。メダルを

獲得した種目が団体、個人とも多岐に亘っているのも素晴らしい。子どもたち（若者たち）が、小さい頃から好きな競技にじっくりと取り組み始めるような環境が整備されてきたことが活躍の要因と思うがどうか。現在、中学校では運動部活動の地域移行が進められているが、これまでも増して広く地域や民間の力が結集できればと願う。

「今の子どもは：」を極力抑え、今の子どもの優れている点を見付け、伸ばしてやることが大人としての責務ではないだろうか。

令和6年度新入会員の紹介(敬称略)

〔鹿角市〕

和田 渉 青山 秀人 駒木 利浩
阿部 宗近

〔大館北秋田〕

北林 孝男 松下 健 出川 英章
渡邊 政徳 花田 一雅 鎌田 裕之
福司登志子 庄司 保雄 今川 拓

〔能代市山本郡〕

小林 秀雄 佐藤 博志
八代 英樹 檜森 秀樹 佐藤 達治

〔男鹿市〕

佐藤 和久

〔秋田市〕

星野 和貴 長沼 優

〔由利本荘・にかほ〕

佐藤 春美 佐藤 睦子 高野 宏明
佐藤真二郎 佐藤 隆 猪股 正信
運藤 良和 佐藤 隆史 村上 道夫
小番 雅和 阿部 明

〔大曲仙北〕

加藤 勝則 小松 晴夫 鈴木 良二
田口 倫 渡邊 朋哉 高橋めぐみ
佐々木 通 佐藤 信夫 藤原 修悦

〔横手市〕

木村 司 沢村 正志 笹山 洋希
太田 博史 菅 雅彦

〔湯沢雄勝〕

佐藤 芳一 遠田 学

令和六年度秋田県退職校長会 理事会・総会

表記の会が五月十一日(木) 協働大町ビルで開催された。

午前の理事会に続き、午後一時から開催された総会では、前回の総会以降お亡くなりになられた会員へ全員で黙祷を捧げた後、初めに高橋一郎会長からあいさつがあった。

【高橋一郎会長】

おかげさまで令和六年度がスタートできる。しかし、コロナの三年間のブランクは非常に大きく難題を抱えていると言える。課題をクリアしながらこの会をもっとよいものにしてほしいという思いで存続していかねければならない。また、昨年度は多くの郡市にお邪魔しお話を伺う機会を得た。その際には、この会の意味づけとして、綱領の二番目の「生きがい」と三番目の「親睦」が大切であると考え、呼び掛けてきた。今年度も親睦を深める機会を大切にしながら会が発展するように頑張っていくたい。

高橋会長のあいさつに続いて二名のご来賓の方々から祝辞



を頂戴した。

【県教育庁義務教育課柴田茂明チームリーダー】

県内各校では新入生を迎え、コロナ禍の頃とは違って児童生徒の元気な表情が見られるなど活気にあふれた新年度を迎えている。時代の要請に応える取組を二つ紹介する。

①教員一人一人が児童生徒と向き合う環境の整備については、まず、学校サポーター89名の配置を予定している。また、クラウド型の統合型校務支援システムの共同調達、共同利用を全県に広げていきたい。来年度から高校入試の出願もシステム化する予定である。

②不登校などの生徒指導上の課題への対応については、一刻の猶予もない状況である。今年度はSCの配置時数を拡大するなどして教育相談体制の一層の充実を図っている。新規事業としては、教室に入りづらさを感じている児童生徒の多様な学びの保障を支える支援スタッフを17名配置する予定である。

【長門里香県小・中学校校長会長】

令和元年度以来、五年ぶりに年度当初から行動制限のない一年が始まった。学習活動も積極的に外の力を活用したり、内と外とを往還しながら、今の学習指導要領の眼目である開かれた教育課程の実現に向けて本格始動というところである。

校長会の会員がこの10年間で70名の減となるなど、少子化と学校数減少が続いている。また、段階的な定年年齢引き上げが始まった

が、職員の年齢構成の若返り化が進んでいる。皆様から引き継いできた教育の不易の部分を次の世代へ継承しながら、ICTの活用など時代の流れとの融合を図り、令和の日本型教育を具現化していくことが求められている。

【議事】

その後、加賀谷亨事務局員を議長に選出し、次の議案について審議した。

- ①令和五年度会務報告
- ②令和五年度監査報告及び決算について
- ③令和六年度事業、活動計画(案)について
- ④令和六年度予算(案)について

(含本年度会費の確認)

- ⑤役員改選について
- ⑥組織について

高橋一郎会長の後任である伊藤栄二新会長をはじめとする令和六・七年度の役員及び組織について承認された。

- ⑦その他

・東北大会について

米澤新副会長から、令和八年度に予定されている秋田大会へのご協力をお願い及び来年度の山形大会では秋田に発表が割り当てられていることについての情報提供等があった。

すべての議事が滞りなく承認された後、感謝状の贈呈があった。本年度は、鹿角退職校長会の吉田啓一副会長と秋田市退職校長会の加賀見俊一事務局長に贈呈された。

総会後に行われた懇親会には四十三人が参加し、和やかに懇親を深めることができた。

令和5年度 会計決算書

収入総額 2,607,085円
 支出総額 2,159,988円
 差引残額 447,097円

【収入の部】

(単位：円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	付 記
1. 会 費	1,845,000	1,845,000	0	1,500円×1,230人
2. 特別協賛金	0	0	0	
3. 繰越金	762,074	762,074	0	令和4年度より繰り越し
4. 雑収入	10	11	1	貯金受取利子
合 計	2,607,084	2,607,085	1	

【支出の部】

(単位：円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	付 記
1. 会議費	195,000	162,754	-32,246	
(1) 総会費	100,000	79,278	-20,722	資料関係、会議室料、交通費等
(2) 理事会費	55,000	64,756	9,756	資料関係、会議室料、交通費等
(3) 監査会費	20,000	18,720	-1,280	会場費、交通費等
(4) 事務局会費	20,000	0	-20,000	
2. 業務費	350,000	249,820	-100,180	
(1) 旅費	300,000	239,820	-60,180	全連退、東北協議会参加
(2) 慶弔費	50,000	10,000	-40,000	表彰者祝い金
3. 事務費	290,000	260,560	-29,440	
(1) 通信費	105,000	99,414	-5,586	会報等送料、発送材、振込料金等
(2) 消耗品費	40,000	29,010	-10,990	紙、封筒、インク等
(3) 雑費	30,000	48,670	18,670	感謝状・賀詞等印刷代
(4) 事務局費	35,000	26,466	-8,534	事務局通信費、秋田県教職員録等
(5) 報償費	80,000	57,000	-23,000	事務局会等交通費
4. 事業費	1,146,000	974,854	-171,146	
(1) 教育懇談会費	60,000	60,000	0	鹿角・能代市山本郡・大曲仙北へ各20,000円
(2) 秋季研修大会費	100,000	20,014	-79,986	会場費、講師交通費、資料等
(3) 調査費	10,000	0	-10,000	
(4) 会報印刷代	230,000	198,000	-32,000	県会報印刷費(2回)
(5) 郡市連絡協議費	100,000	79,180	-20,820	郡市総会・郡市研修会等への派遣費等
(6) 郡市研修活動費	246,000	246,000	0	郡市へ200円×納入者数(1,230人)
(7) 「教育の日」活動費	50,000	50,000	0	「あきた教育の日」関連活動費
(8) 郡市会長・事務局長合同会議費	100,000	71,660	-28,340	資料関係、会議室料、交通費等
(9) 記念事業準備金	100,000	100,000	0	特別会計へ(節目の年の記念紀要作成等)
(10) 東北大会準備金	150,000	150,000	0	特別会計へ(6年周期東北秋田大会用)
5. 負担金	512,000	512,000	0	全国(400円×1,230人)、東北20,000円
6. 予備費	114,084	0	-114,084	
合 計	2,607,084	2,159,988	-447,096	

令和6年度 収支予算書

収入総額 2,262,107円
 支出総額 2,262,107円
 差引残額 0円

【収入の部】

(単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	付 記
1. 会 費	1,815,000	1,845,000	-30,000	1,500円×1,210人
2. 特別協賛金	0	0	0	
3. 繰越金	447,097	762,074	-314,977	令和5年度より繰り越し
4. 雑収入	10	10	0	貯金受取利子
合 計	2,262,107	2,607,084	-344,977	

【支出の部】

(単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	付 記
1. 会議費	185,000	195,000	-10,000	
(1) 総会費	90,000	100,000	-10,000	資料、交通費等
(2) 理事会費	65,000	55,000	10,000	資料、交通費等
(3) 監査会費	20,000	20,000	0	会場費、交通費等
(4) 事務局会費	10,000	20,000	-10,000	会議費等
2. 業務費	370,000	350,000	20,000	
(1) 旅費	320,000	300,000	20,000	全連退、東北協議会他
(2) 慶弔費	50,000	50,000	0	慶祝・弔意、表彰
3. 事務費	285,000	290,000	-5,000	
(1) 通信費	110,000	105,000	5,000	会報等送料、発送用具等
(2) 消耗品費	30,000	40,000	-10,000	紙、封筒、インク等
(3) 雑費	45,000	30,000	15,000	筆耕料、謝礼 他
(4) 事務局費	30,000	35,000	-5,000	事務局通信費、コピー、印刷費等
(5) 報償費	70,000	80,000	-10,000	事務局会等交通費
4. 事業費	916,000	1,146,000	-230,000	
(1) 教育懇談会費	60,000	60,000	0	男鹿市・秋田市・横手市へ各20,000円
(2) 秋季研修大会費	85,000	100,000	-15,000	会場費、講師謝礼、資料等
(3) 調査費	10,000	10,000	0	調査等に係る経費
(4) 会報印刷代	210,000	230,000	-20,000	県会報印刷費(2回)、関係資料代
(5) 郡市連絡協議費	90,000	100,000	-10,000	郡市総会・郡市研修会への派遣費
(6) 郡市研修活動費	121,000	246,000	-125,000	郡市へ100円×納入者数(1,210人)
(7) 「教育の日」活動費	60,000	50,000	10,000	「あきた教育の日」関連活動費
(8) 郡市会長・事務局長合同会議費	80,000	100,000	-20,000	交通費、資料等
(9) 記念事業準備金	50,000	100,000	-50,000	特別会計へ(節目の年の記念紀要作成等)
(10) 東北大会準備金	150,000	150,000	0	特別会計へ(6年周期東北秋田大会用)
5. 負担金	504,000	512,000	-8,000	全国(400円×1,210人)、東北20,000円
6. 予備費	2,107	114,084	-111,977	
合 計	2,262,107	2,607,084	-344,977	

令和5年度 特別会計決算書

収入総額 833,517 円
 支出総額 0 円
 差引残額 833,517 円

【収入内訳】

1 前年度繰越金 583,513 円
 2 記念事業準備金 100,000 円
 3 東北大会準備金 150,000 円
 4 受取利子 4 円
 合計 833,517 円

【支出内訳】

・支出項目なし

合計 0 円

※ 上記の残額 833,517 円については、別冊「特別会計」用の通帳に、貯金保管中である。

令和6年度 秋田県退職校長会役員一覧

◆県【事務局所在地】 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部「旭水会」内 TEL/FAX 018-831-2783

顧問	佐藤 重義	千葉 昭	佐藤 俊彦	高橋 一郎
会長	伊藤 栄二			
副会長	伊勢 善和	伊藤 章	佐々木孝雄	米澤 喜彦 (会長職務代行者)
常任理事	佐藤 敬顕	安倍 武義	大山裕一郎	大山 重幸
理事	各郡市から1名(但し、秋田市から3名) 下記のとおり			
監事	戸未 容子 (鹿角)	茜谷 英也 (秋田市)	姉崎 克則 (湯沢雄勝)	
事務局長	石郷岡仁司			
事務局員	佐々木康二 工藤 隆	工藤 絹子 加賀谷 亨	齋藤 透 米澤 喜彦	越中谷俊悦

◆郡市【会員数】 1,498名 (内名誉会員308名) R6.6.30 現在

退職校長会名	会員数	会長	副会長	県理事	代議員
鹿角	70 (15)	望月 伸哉	吉田 啓一	望月 伸哉	戸未 容子・石井 和光
大館北秋田	216 (39)	伊勢 善和	小笠原友行・菅原 朋雄 明石 勝美	伊勢 善和	小笠原友行・菅原 明雄 明石 勝美・佐藤 久生
能代市山本郡	178 (31)	佐藤 敬顕	松山 敬悦・近藤 和雄 竹内 秀樹・佐藤 智子	佐藤 敬顕	松山 敬悦・近藤 和雄 竹内 秀樹・佐藤 智子
男鹿市	55 (6)	伊藤 章	村木 康子・浅井 繁樹	伊藤 章	村木 康子・浅井 繁樹
秋田市	242 (57)	伊藤 栄二	米澤 喜彦・大山 重幸	羽川 誠 濱田 眞 大山 重幸	松山 郁子・三條 正弘 鎌田 寿和・千葉 学 茜谷 英也
由利本荘・にかほ	205 (35)	安倍 武義	池田 弘美・菅原 耕悦 織田羽衣子・伊東 金一 高橋 行二	安倍 武義	池田 弘美・菅原 耕悦 織田羽衣子・高野 睦
大曲仙北	229 (59)	渡邊 義實	柴田 政幸・高橋 正彦 小原 靖・山崎 敏	渡邊 義實	高橋 正彦・小原 靖 山崎 敏・佐藤 心一
横手市	188 (47)	佐々木孝雄	永沢 弘・鈴木 康	佐々木孝雄	永沢 弘・鈴木 康 佐藤 稔
湯沢雄勝	115 (19)	大山裕一郎	齋藤千鶴子・門脇 博	大山裕一郎	門脇 博

郡市だより ~ 退職校長会に寄せる思い ~

鹿角

ソフトウェアングを目指して

阿部 宗 近

定年延長により、最後の一年を教諭として勤務するか、自己都合退職するかを選択することとなり、三月に「辞職を承認する」との辞令をいただきました。

体のメンテナンスや家の整理などで充電期間を設けたいと考えていましたが、残念ながらできませんでした。四月から初任者研修指導教員という役割をいただき、三校を兼務して勤務しています。諸先輩方に倣ってしばらくは学校現場に足を運んで恩返しをしていかなければならないと考えています。

心機一転

青山 秀 人

四月下旬に行われた鹿角退職校長会定期総会・懇親会において、新加入会員として盛大に歓迎していただき、退職校長会の一員になれたことを改めて実感しました。

現在、鹿角市教育委員会に新設された「部活動地域移行コーディネーター」として、初めて行政現場で勤務しています。退職後に再開しようとしていた溪流釣りとウォーキングは中断したままで、今後は余暇も楽しみつづ、鹿角退職校長会の活動方針である「鹿角の教育振興に寄与する」を目指して、微力ながら頑張っていきたいと思

大館北秋田

働く喜びを感じながら……

北林 孝 男

定年延長・役職定年制度が始まった一学生です。スパッと退職できず、教諭として、算数の少人数指導という立場で城南小学校にお世話になっていきます。同僚の姿から学級担任の大変さ、授業を通して直接子どもに関わる喜びを改めて感じている毎日です。

四月、大北退職校長会の総会で新入会員として紹介していただきましたが、現役で、しかも教諭で参加して、不思議な気持ちでした。これまで教育界に尽力されてきた先輩の皆様、大変お世話になった皆様と関わる機会を頂戴しました。どうぞよろしくお願ひします。

第二の社会人として

佐藤 博 志

退職年齢が段階的に引上げとなる制度の初年度、一区切りをつけ、会計年度職員として福祉事務所に勤務しています。児童福祉を担当する機関の一員として学校や園等に関わっています。変化の激しい時代に日々奮闘する教員を後方支援し、お世話になつた教育現場や地域社会で役に立てればと思つています。

校長在職時代に本会の研修会や懇親会に参加させていただく機会がありました。人生を楽しんで歩んでおられる先輩方のお話に溢れんばかりのエネルギーと元気をもらい、道標としています。これからもお世話になります。

能代市山本郡

「楽しい? 教諭生活」

佐藤 達 治

定年が延長されることとなった一年目の世代です。校長から教諭への降任となり、能代第二中学校で勤務しています。三年主任、教科指導に生徒指導、部活動指導などフルタイム勤務です。(給料は3割カット、相変わらずの時間外労働。) 授業や校務分掌など、やりがいもあり楽しいのですが、若い人と同じようには体がもたない気がしております。

それでも、「働けるうちが花」とか「定年後も何か仕事をした方がいいよ。」という諸先輩たちの励ましの言葉を頼りに、もう少し現役としてがんばっていこうと考えております。今後ともご指導よろしくお願ひします。

健康で豊かなセカンドライフに

檜 森 秀 樹

先輩方をはじめ多くの皆様のお力添えのお陰で、退職を迎えることができました。今後ともご指導よろしくお願ひします。感謝の気持ちを込め、会の趣旨や活動に少しでも協力できればと思います。

退職後は、健康に気を付け、孫が相手をしてくれる間は孫遊びを満喫し、家庭菜園の大拡張、花があふれる庭園づくり、国内旅行+大学時代の友人めぐり等、やりたいことリストはたくさんあります。とりあえず、四月の平日に伊勢神宮、名古屋、京都を巡り、退職したことを実感することができました。

男鹿市

男鹿市退職校長会の役員となつて

加藤 牧子

定年退職後、家庭に入り自分のペースで過ごしています。物事への取り組み方を、「やらなければならぬ」から「やりたい」という方向に転換し、その時々を楽しんでいます。

退職して一年が過ぎた頃、男鹿市退職校長会の役員にお声を掛けていただきました。第一回役員会に参加した時、組織の一員としての自分を意識し、背筋が伸びる思いでした。久しぶりに、わくわくする楽しい時間を過ごしました。現在、役員として力不足な分、行事に参加するように心掛け、会に多少なりとも貢献できるようにと考えているところです。

皆様と共に

佐藤 和久

報道で、教員採用試験日の前倒しや教員の手不足などに改めて触れ、はて？在職中は職業としての教員の魅力を有形無形に伝えられたか？と自問自答することがあります。また、地域の学校と町内会との合同避難訓練に参加し、子どもたちと一緒に励む教職員の姿に出会い、頼もしく感じました。現場は離れましたが、現場は関心ごとのひとつです。

男鹿市退職校長会は、結成から50年になります。県退職校長会の活動と共に諸先輩方からご助言をいただき、親しく活動できればと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

秋田市

区切りと再出発

星野 和貴

令和六年三月末に退職辞令を受け、教職人生に区切りがつかしました。定年延長制度の初年度だったことから六〇歳自己都合退職ではありませんでしたが、大過なく職責を果たすことができました。特に平成三〇年からの校長職六年間は、全連小秋田大会の大成功にかかわれたことやコロナ禍で前例のない状況のもと学校経営に取り組んだことなど忘れられません。校長会の仲間の先生方のおかげで乗り越えられたと思つています。再出発とともにその先生方とつながっていられたらと願っています。

秋田教育を応援する一人として

越中谷 俊悦

令和6年4月27日に、秋田市退職校長会総会に出席いたしました。コロナ禍が明けて2回目の開催と伺いましたが、以前の出席者数に戻ることはそう簡単なことではないことを感じました。

私が現職の頃は、退職校長会会員の方たちから、様々な機会に、激励や助言を受け、助けていただきました。今、私は退職校長会会員4年目となり、恩返しのできることを基にしながら応援をしていきたいと考えているところです。

由利本荘・にかほ

理想と現実

高野 宏明

私の年代は定年が一年延長となりました。ゴールを目指して走ってきたのに、ゴール直前で「もう一周」と言われた気分です。役職は定年となり、四月から教諭として大内小学校で、五年生（通常学級、児童十四人）の担任、生徒指導主事、外国語主任を務めています。目指したい授業・学級経営はあるものの、現実にはなかなか厳しく、日々反省しています。少しでも子どもたちに力を付けられるよう、がんばっていききたいと思えます。

このような私ですが、よろしく願いいたします。

ご縁に感謝して

佐藤 睦子

退職校長会総会に出席し、過去にお世話になった先生方の温かい笑顔に迎えていただきとても嬉しく思いました。

四月からは由利本荘市教育支援センターに勤務させていただいておりますので、子ども、保護者、そして学校のために少しでもお役に立てることができればと考えています。

今後は、退職校長会の一員として学校教育現場の応援をしながら、先輩方から生活を豊かにする方法をご教示いただき、これまではできなかった新たなことに挑戦していきたいと思つています。よろしくお願いいたします。

大曲仙北

先輩 よろしくお願ひします

藤田 寿

昨年、六十歳定年最後の年に退職を迎え、現在は暫定再任用教諭となり算数専科教員として毎日授業をしています。仙北市教育長が話す「授業でこそ人づくり」を念頭に置きながら、学びを楽しみ分かったを実感できる授業になるよう毎日悩み考える時間が、初任のときのように毎日悩み考えてきました。若いとき先輩の先生方からたくさんのお話を教えていただきました。退職校長会の皆様方には第二の人生の楽しみ方もご教示いただけますと幸いです。何卒よろしくお願ひいたします。

役職定年を迎えて

田口 倫

六十一歳定年となった最後の一年は、学級担任の持ち時間を軽減する専科教員として、花館小学校に異動でした。三度目の赴任となります。主に高学年担当の週二十二時間程度、部活動も担当しています。

この数年間は、教科指導から離れていたため、今は授業と教材研究であつという間に一日が終わります。不安だらけのスタートでしたが、子どもたちと触れ合うことが増え、教育への情熱に溢れ、この世界に飛び込んだ頃を思い出し、嬉しくなります。セカンドライフは、まだまだ先のことになりそうです。

横手市

日々穏やかにドラマが展開

沢村 正志

退職して間もなく、体力づくりを兼ねてクロスバイクを購入しました。サドルと仲良しになってきたお尻の痛みがだいぶ和らぎ、ついつい遠出してしまいます。これも趣味の一つ、アマチュア無線のハンディ機を自転車にセットし、風を感じ、自動車とは違ったのんびり流れる景色を満喫したいと思います。優先順位はもちろん家族ですが、一人で過ごす時間にも「わくわく」する毎日です。

退職校長会一年生として、先輩会員の皆様に助けていただきながら、小さな歩みを進めて参ります。よろしくお願ひいたします。

少しでも恩返しを

木村 司

三月。職を去るにあたり、ある寄稿に三つのことを寄せさせていただきました。これらで支えていただいたことへの感謝、これからの新しい生活への不安、そしてこれからの教育へのエールでした。

四月から新しい任地での生活が始まっています。これまで感じていた緊張感から解放されたつとも、新しい職務に戸惑いと責任を感じながらの毎日です。

これまでの支援に少しでも恩返しができるように、ささやかな目標をもちつつ少しでも充実した生活が送れるように、そして教育へのエールというスタンスで歩んでいきたいと思ひます。

湯沢雄勝

じわりと歩み始めました

佐藤 芳一

5月の地区総会・懇親会で温かく迎えていただきました。今も精力的に活動されている皆さんの先輩とお会いし、退職後の人生もかくあるべしとご教示いただいたように感じました。

現在、自宅から徒歩3分の図書館に勤務しています。昼休みには一旦帰宅して86歳になる母親と昼食をとり、これもささやかな親孝行かと勝手に思い込んで、一人いい気になっていきます。28年ぶりとなる地元での仕事を感慨深く受け止めつつ、少しでも生まれた町に貢献できればと思っております。

自分らしく

遠田 学

教育行政職と管理職としての十年間を終え、久しぶりに中学生を前に授業に臨む。4月はまさに足が地に着かない状況だったが、最近やつと感覚が戻りつつある。チョークまみれになった手や生徒の食いつくような視線に懐かしさを感じつつも一つ変わったことがある。それは以前より生徒や保護者の立場を大きく意識していることだ。教育機器をぎこちなく使いながら十年間でやり残したことに挑戦する日々。やはり「自分の居場所はここなんだ」と実感している。

現職&退職校長会の主な動き

現職校長会情報

(1) 秋田県小・中学校長会定期総会

五月十五日(水)に開催された標記の会は、書面表決で行われ、令和六年度の新役員が次のとおり決まりました。

役職	氏名 (校名)	氏名 (校名)
会長	長門 里香 (御所野)	坂谷 陽 (秋田東)
副会長	菊地 洋文 (桜)	赤川 清仁 (外旭川)
〃	近藤 明子 (金岡)	高橋 晋 (森吉)
〃	安田 和人 (八郎潟)	土倉 新也 (本荘南)
〃	築地 高 (大曲)	伊藤 秀樹 (雄勝)

小・中学校長会長には、長門里香氏が選出されました。
令和五年度末に役職定年を迎え退会となられた会員は全県で六十七名です。

(2) 秋田県小・中学校長研究大会

標記の会が次のような日程・概要で開催される運びです。

日時 令和六年八月十九日(月)
会場 秋田県総合教育センター・秋田県自治

研修所

主題 「未来に向かって夢はばたかせ、

たくましく生きる児童生徒の育成」

右記主題のもと、午後からの半日開催とし、小学校4分科会、中学校3分科会が行われます。

(3) 本年度の東北大会(小・中)

◆東北連合小学校長会研究協議会青森大会

日時 令和六年七月四日(木)～五日(金)

会場 弘前市民会館等

主題 「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育の推進」

◆東北地区中学校長会研究協議会岩手大会

兼全日本中学校長会研究協議会岩手大会

日時 令和六年十月十七日(木)～十八日(金)

会場 トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)等

主題 「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」



退職校長会情報

(1) 全連退理事会・総会

令和6年6月6日(木) 7日(金) 全連退理事会・第60回総会が、東京都「きゅりあん」(品川区立総合区民会館)で開催された。秋田県からは、伊藤栄二会長、米澤喜彦副会長、石郷岡仁司事務局長が参加した。

総会では、次の議事が提案され、全て承認された。質疑では、事務の効率化や諸会合の精選、読みやすい会報の発行などの意見や要望が出された。今年度の主な活動の変更点としては、理事会が年1回になったこと、会報が年3回の発行となったことがあげられる。

- ① 令和5年度会務報告
- ② 令和5年度決算報告・監査報告
- ③ 令和6年度役員承認
- ④ 令和6年度活動目標・事業計画
- ⑤ 令和6年度予算
- ⑥ 総会宣言の採択

7日(水) 午後からは、文部科学省総合制作局政策課課長補佐 沼澤綾子氏から、昨年6月に閣議決定された「第4期教育振興基本計画」についての講演があった。計画を貫くコンセプトは、「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」である。詳細は文部科学省のホームページをご覧ください。

(2) 郡市会長・事務局長合同の会

7月6日(土)に「郡市会長・事務局長合同の会」が秋田市の協働大町ビルを会場に開催された。会議での協議の概要は次のとおりである。

① 地区退職校長会から

最近の加入状況や会報、総会等の実際及び定年延長に伴う新会員の勧誘時期等、各地区の現状と課題について貴重な情報交換及び意見交換がなされた。

② 第44回秋季研修大会について

10月19日(土) 協働大町ビルにて開催。内容は、2地区からの発表と会場の近隣にある赤れんが郷土館の施設見学。9月上旬に案内を発送する予定である。

③ あきた教育の日について

各校の行事予定に反映されるよう郵送料金値上げ前となる9月中旬にハガキで各小・中学校へ周知する予定。

④ 東北地区協議会について

令和6年度福島大会の概要及び令和7年度山形大会では本県に発表が割り当てられていること、そして、令和8年度秋田大会についての協力依頼等があった。

その後、昼食会を兼ねた懇親会が25名の参加のもと、和やかな雰囲気で行われた。



(3) 東北地区退職校長会協議会福島大会

令和6年10月8日(火) 9日(水)に、福島県福島市「ホテル福島グリーンパレス」において開催予定である。大会協議題は「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうか」で、一日目は、理事会、講話、各県からの話題提供が行われる。二日目は、東日本大震災後の復興の現状について学ぶ機会として、東日本大震災・原子力災害伝承館、大熊町立学び舎ゆめの森での視察研修が予定されている。

第44回秋季研修会開催案内

【日時】 令和6年10月19日(土)

10時20分～

【会場】 協働大町ビル

【主題】 「退職後の生きがいや在り方をもとめて」

【日程】

開会式 10時20分～10時30分

発表 10時35分～11時40分

担当地区 ①由利本荘・にかほ

②大曲仙北

施設見学 12時00分～12時55分

場所 秋田市立赤れんが郷土館

懇親会 13時10分～15時00分

会員のご逝去(敬称略)

心からご冥福をお祈りいたします。

(102号以降)

氏名 年月日 住所

平川 次郎 6・1月 北秋田市伊勢町

佐藤昭二郎 6・4・5 北秋田市米内沢

工藤 嘉洋 6・3・29 能代市住吉町

斎藤 静夫 6・3・29 秋田市檀山

川村 和雄 6・2・17 由利本荘市岩城勝手

(正六位瑞宝双光章)

黒木 正之 6・3・28 由利本荘市東梵天

鈴木 啓治 6・4・3 由利本荘市水林

田口 公子 6・3・18 秋田市広面

川井正三日 6・3・22 大仙市戸地谷

藤井 嗣信 6・4・12 仙北市角館町

(正六位)

糸井 健二 6・3・24 横手市上内町

(正六位)

佐々木 功 6・2・5 横手市十文字町

石川 芳道 6・3・22 湯沢市岩崎

会員の寄稿

果樹栽培講習会に参加して思うこと



鹿角

千葉綾悦

定年退職から三年間初任研の指導教員をしてきたが、今年三月その職務を終えた。「退職したら何をするのか」と心配されたが、現職時代から、「やりたい」と思っていることがいくつかあった。

その一つが、果樹栽培に関わることである。社会教育主事をしていた時、平元小（柴平小に統合）のアップル活動を取材し、ある冊子に紹介したことがあった。翌年、その平元小に赴任、三年間アップル活動に関わることでできた。一年を通してのリンゴの栽培活動に加えて、サクランボを栽培している山形の学校、サツマイモを栽培している宮崎の学校との交流、東北道花輪SAでの活動紹介・販売体験、アップルパイづくりなど、先生たちのアイディアで活動の幅を広げることができた。

それ以前にも教え子の中にリンゴ農家の子どもたちがいて、平成三年九月の台風十九号の時には、後始末を手伝いに行ったこともあった。現在リンゴ農家を継いでいる教え子の

話では、人手不足や後継者がいなくて、自分の代でやめる果樹農家もあるとのことであった。そのような経験・関わりもあり、ぜひやってみたいと思っていた。

学校に配布されるJAの広報紙で、「果樹栽培サポーター育成講習会」があることを知っていたので、早速申し込んだ。四・五月、果樹センターで摘蕾・摘花・摘果等の講習に参加した。今後は袋掛け・収穫等についての講習が予定されている。講習で学んだことを生かして、今後、果樹栽培のお手伝いできればと考えている。

果樹栽培に関わらず、私の地元では、後継者がいなくて、老舗の商店・飲食店が閉店している。高校も統合され、改めてふるさと・キャリア教育の大切さを感じている。

(令和三年三月退職)

「歩み」から次の「歩き」へ

大館北秋田
庄司

弘

多くの方の指導と協力で無事に退職し、六年目の春を迎えた。これまでの「歩み」に感謝しながら、次の「歩き」が大切と感じている。退職の翌日、四月一日は関西への移動、翌二日は甲子園球場で選抜高校野球準決勝観戦、そして三日は、立教セカンドステージ大

学入学式とあわただしい始まりであった。コロナ禍で二年の予定が、三年に延びた大学生活だったが、新たな出会いや放送大学も経験し、充実した夢のような学生生活であった。

「歩きや旅」にこだわりの、散歩や『青春18きっぷ』での各駅停車旅行、山歩きなどをしていく。夏の北アルプス登山はテントを担いでのマイペース。天候や体力、山小屋のピールに負けて予定通りとならないことが多かった。災害時には電車が止まると聞き、池袋から所沢まで27kmの徒歩帰宅を実行。次には旧東海道を歩きたい思いに駆られ、約五百kmを分割し、延べ十九日間で歩く。山道や登り下りに苦労するが、単調な国道歩きもつらかった。ゴールの三条大橋は、改修工事中で片側はシートに覆われ、少しがっかりだったが、旧東海道完歩の満足感は大い。

次は何かと模索中。明治38年に母校大館中学校（現大館鳳鳴高校）野球部は、仙台までの東北遠征試合を行っている。選手の一部は大館から岩手県好摩まで歩いて移動して、試合に臨んでいた。他にも有名なイザベラバードの『日本奥地紀行』、松尾芭蕉の『おくのほそ道』、それをたどる正岡子規の『はて知らずの記』と先人の秋田県内の「歩き」に思いをはせている。正岡子規は「はて知らずの記、ここに尽きたりとも、誰か我旅の果てを知る者あらんや」と記している。

(平成三十一年三月退職)

還暦からの一歩



能代市山本郡

淡路敦夫

退職したら、もう一度挑戦してみようと考えていた。学生の頃、柳田国男に傾倒し、地方の文学や歴史、民俗に関わる本作りの仕事に就きたいという思いがあった。東北地方のある出版社にねらいを定め、採用資料を取りそろえて準備した。いろいろあったのだが、要するに給料が無くともよければ来てほしいとのことだった。

十年ほど前だったか、その出版社の方が立派な賞をもらったことを新聞で知った。その記事を読んで、給料が無くとも仕事をするという意味がようやく飲み込めた。そもそも出版に対する熱量が違っていたのである。

退職して7年間、菅江真澄を読んでゆかりの地を訪ねたり、文章を書いたりしてきた。念願だった出版も、真澄の読本のようなものを一冊作ることができた。幸い、声をかけてくれる人もいて、一人でのんびりやろうと思っていたのだが、新しい出会いがいくつか生まれた。

その一つに、「真澄の見た白神山地」というテーマで都内の大学生たちを案内することがあった。残暑の厳しい中、銚子の滝や太良鉱山跡、水無沼などを訪ねた。二十代の都会育ちの学生たちに、白神の風景はどう映った

のだろう。彼らは大学のゼミで初めて真澄を読み、その舞台となった白神山地を訪ねたのだった。文章ではわからなかったところも実際に見て、聞いて、感じることで理解できたと言っていた。一人でも多くの人に真澄を読んでもらいたいという願いは、とりあえず三人の若者たちには伝えることができた。

予定の場所を回り終え、最後に「白神山水」の原料となっている湧き水で喉を潤した。学生たちは屈託無く笑い、驚き、感想を述べた。私も久々に若い人たちの感性に触れ、刺激的で爽やかな一日を過ごすことができた。

(平成二十九年三月退職)

今を生きる



男鹿市

米屋孝明

退職して約二年になる令和五年一月、妻が病を発症。病名は「悪性リンパ腫」。市内の健康診断でひっかかり、近隣の病院で再検査を受けることになった。医師から大きな病院での検査を勧められた。その後、秋田市内のK医療センターや大病院で検査をした結果、病名を告げられた。「まさか、なぜ妻が。」妻を気丈に励ます自分と不安な気持ちに揺れる自分が交錯する日々が続いた。入院

して投薬治療が開始された。手術ができないため、抗がん剤の点滴による治療である。一回の入院が二週間、これを六カ月間続けた。その間、今の放課後等デイサービスでの仕事をしながら、食事の準備・片付け、掃除、洗濯など、今まで妻がしていたことを全て自分がすることになった。今更になって、妻への感謝の気持ちが増した。治療を開始して8カ月後、医師から寛解を告げられた。その瞬間の妻が安堵して喜ぶ笑顔は一生忘れられない。妻の入院中の言わば自炊生活からの解放感よりも、闘病に勝った妻への賞賛と感謝の気持ちで一杯になった。

妻の病気を通して考えさせられたことが多々ある。人は過酷な試練と戦うことを通して生きる真の意味を見いだす、ということである。病気になった時、いかに「負けない」気持ちで立ち向かえるかが試されると痛感した。人として生を受けた以上、生老病死の苦は回避できない。だからこそ、「今を生きている」ことに感謝し、一日一日を大切に生きていきたい。幸福は、希望を持つこと。希望こそ人生の宝。希望がなければ自分でつくればよい。何歳になっても、新たな希望をもつて、「今を生きる」挑戦の日々を過ごしたい。

(令和三年三月退職)



退職八年目、元気です…



秋田市

林 崎 勝

早いもので、定年退職して八年目に入りました。定年後の職場でも、転勤奥様や自称ナイスミドル、幼児とお母さん、大学生や院生などの「人」を相手に働いていました。

五年前に秋田市の市民農園を借りました。全てを退職した二年前からは、「農作物」を相手にした毎日を送っています。五〇mの畑にジャガイモや枝豆、オクラ、ナスに小玉スイカ、大根やたまねぎなどを作り、その出来栄に一喜一憂しています。

農作物を育てることに年々奥深さを感じています。恥ずかしながら奥の前の前の段階なのですが「苦土石灰って何?」「ベタ掛かって何を掛けるの?」というところからのスタートでした。今もまだそのレベルにいます…。奥深さを味わう前の前に。

農園に行くとき周りの皆さんが先輩です。我が家では勝手に皆さんのことを「〇〇先輩に枝豆師匠、帽子や青年…」などと呼ばせていただいています。

昨年七月の豪雨の数日後でした。一人の先輩のジャガイモが豪雨で溶けて全滅してしまいました。その際の先輩の一言は「災害で被害に遭った農家の皆さんにとっては本当に死活問題。それに引き換えて趣味の私たちは笑

っていられる。全滅したのだから落ち込むけれど、来年はまた来る(はず)」というようなものでした。全くそのとおりです。

農作物を相手にして思うことは「今年の反省を生かすには一年待たないといけない(長いなあ)」ということ。そして、収穫した作物を送ったときに「ありがとう、おいしくいただく」という言葉ももらったときの格別さです。さあ明日も畑へ行くぞ!

(平成二十九年三月退職)

ミウラ折り



由利本荘・にかほ

澤 井 康 孝

今頃になって、ミウラ折りにはまりそうです。

きっかけは、途中下車し散策するTV番組です。西武池袋線沿いの个性的な店を紹介するその回で、アートギャラリーを訪れる場面がありました。展示されている作品は画面越しにも魅力的に見えました。すべて東京大学名誉教授三浦公亮氏が考案したミウラ折りによるもの、という話があったので早速ネットで検索してみました。有名な折り方でした。

一部の市販地図や観光案内地図で利用されているようですし、山岳地図を使う方には当たり前の折り方になっていることも知りまし

た。携帯に便利で開閉が瞬時に出来るアイデアには唸られます。また、お酒やコーヒの缶にも応用されるなど、実に身近な折り方なのでした。

ミウラ折りの原点は、宇宙における太陽電池パネルの活用にあります。パネルを、出来るだけ小さくしてロケットに積み込み、宇宙空間に飛び立つと広がり、地球に戻るとき再び小さくして回収しなければなりません。この一連の動作をロボットにさせるにはどうすればよいか考えた末に気づかれたと言います。老人の顔のシワや宇宙から撮った地球表面の凹凸も一翼を担ったそうで、二十年近くシワを観察していたことには驚きです。その昔バラエティ番組に出ていたクシャおじさんも観察対象だったかもしれません。

動画を参考に折ってみました。出来上がりはまずまず。サツと開いて、スツと戻る感触はなかなか気持ちの良いものです。横方向の平行な線と縦方向のジグザク斜め線の織りなす妙。手先が不器用で折るのに時間がかかりますが、それもまたよしです。これからしばらくミウラ折り周辺を愉しもうと思っ

(平成二十七年三月退職)



「アイヌ語」実は「古代和語」



大曲仙北
金子俊隆

アイヌ語を研究して三十年以上の月日が過ぎました。その中で分かったことは、アイヌ語は、まだ日本に文字がなかった頃の純粋な日本語、いわゆる古代和語を構成する音と同じ音で構成されている。と言う事でした。

そのため、アイヌ語を構成する音を和語に当てはめると、どんな意味を持つて誕生したのかが分かります。例として、方角を示す「東」「西」という音の並びを紹介します。

※アルファベットは、表音文字です。

○「東」 i h i (尊い者「日」) — k a (上(に)) — u s i (いつもくしている所)

〓 (イヒカウシ 『太陽が毎日に出ている所』)

○「西」 n i n (消える) — u s i (いつもくしている所) 〓 (ニンウシ 『毎日太陽が沈んでいる所』)

また、居酒屋に行くときよく使う「一杯いくか」は、元々は、次のような意味でした。

○ i p e (食事をする) — e (それで) — i k u (酒を飲む) k a (よ) 〓 (イペイクカ 『食事をしながら、酒を飲もうよ』)

この二月、私は「ことばの古代探訪」という本を無明舎出版から出しました。動植物や道具の名称及び日常生活している言葉等が、

どんな意味を持つて生まれたのか、ということについて述べています。

また、アイヌと呼ばれる人達と私達との感性の違いについても紹介しています。

例えば、蚊(カ)は、元々は「カツプシ『皮膚がふくれる虫』」ですが、アイヌ語では「エトタンネ『口先長い虫』」と言います。

さて、混じりつけなしの色々な和語は、どんな意味を持つて生まれたのでしょうか。

興味のある方は、ぜひご購入ください。

(平成二十七年三月退職)

今日行くところ



横手市
嶋田浩一

定年退職して、五年目になりました。講師として四年間勤めましたので、学校現場から離れて、まだ数ヶ月しかたつていません。

これまでは、仕事の合間に「今日はこれやって、次にはあれを」などと考えて過ごすことが多かったのですが、今はそのような縛りからも解放されました。今日やることを自由に決められる生活に、幸せを感じています。

かつて大先輩が、退職後の「教育」とは「今日行くところがあるか、ないかだ。」と

話されていたことがあり、強く記憶に残っています。しかし、趣味ややりたいと思つていくことはあるのですが、それらに没頭したり、極めたりしたいという思いにはまだ至らず、気ままに過ごしているのが現状です。

春先には、町内会事業の担当として、資源回収やクリーンアップを行い、達成感とともに、よい汗を流しました。また、手入れしてきたアスパラが立派に育ち、それをお裾分けした友人から「こんな美味しいアスパラは食べたことがない。」という声をもらい、かなり気分をよくしました。さらには、畑を耕したり、野菜の苗を植えたりした後には、何とも言えない満足感も感じています。このようによい気分を味わえているのは、勤めの合間の作業とは違い、今は時間をかけて丁寧に取り組んでいるからなのかも知れません。

いずれも自己満足に過ぎないのですが、心地よさがあり、退職後の自分の過ごし方を見つけたような気がしています。あまり欲張らずに、一日に一つだけ、些細なことでも自分が満足できそうなことに取り組むことが、自分にとっての「今日行くところ」なのかなと感じています。

(令和二年三月退職)



音楽のパワーで地域を元気に



湯沢雄勝

大野 多加志

音楽のまち「ゆざわ」で育ち、音楽の道へ進んだ私は、自然な流れとして、この活動に携わっています。8年前に音楽のまちをもつと盛り上げるために「音楽のまちゆざわ推進協議会」が組織され、そのメンバーとなりました。退職後は事務局として、湯沢市教育委員会内に席を頂き、推進に携わっています。

その活動内容は「地域で活動している音楽愛好者、音楽団体及び関係団体が一体となつて、日々誰もが音楽に触れることができ、音楽を楽しめるような取り組みを行い、もつて音楽による明るいまちづくりを推進する」を目的に掲げて、今年度は27事業に関わっています。その中心的事業が月イチ♪コンサートです。内容は、公募と本会が主催するもの、持ち込み企画などで、前年度末3月までに年間スケジュールを決めています。現状県内外から応募があり、首都圏からも出演希望があるほど周知されています。

このコンサートは、生の音楽を少しでも多くの方に体感していただくこと、一生に一度の音楽との出会いを大切にしています。

コンサートのアンケートには、毎回「出来るだけ長く続けてください」という願いが多く寄せられます。ここまで続けてこられた

祝 叙 勲

氏名	現住所	功 勞	種 類	受章日
栗田 修六	大館市上代野	高齢者叙勲	瑞宝双光章	6・3・1
北林 良英	大館市岩瀬	高齢者叙勲	瑞宝双光章	6・5・1
梅田 信彦	能代市栄町	高齢者叙勲	瑞宝双光章	5・10・1
畠山 春雄	能代市南元町	高齢者叙勲	瑞宝双光章	6・4・1
大沢 郁夫	三種町鶴川	高齢者叙勲	瑞宝双光章	6・4・1
田中 勝利	大仙市大曲あけぼの町	教育功勞	瑞宝双光章	6・4・29

おめでとうござります

(順不同・敬称略)

のは、その声と共に歩んでいることにつきま。行政と共に仲間と共に市民と共に音楽を通じて湯沢市を元気にという思いを共有して共に歩んでいることが、力になっています。そして、自分の活力になつていくように感じます。



音楽のまちボランティアスタッフと共に

【あとがき】

コロナ禍の行動制限にとらわれない生活が身近になつてきた今、我々会員同士、そして現職の校長先生方と親睦を深める機会が多くなつてきたことをうれしく思います。

今号は、新会長の巻頭言に始まり、現職&退職校長会の動向や会員の皆様からのご寄稿等で構成されております。新会員及び退職間もない会員の皆様にとつては、退職校長会の活動やこれから歩いていくセカンドライフの実際を知ること、退職後の生活に彩りを加えてもらえればと思います。

昨年度からの定年延長に伴い、校長職は退任したものの現場で活躍している方々の入会に新たな時代の訪れを感じるとともに、大歓迎の意を伝えたいと思います。

(平成三十一年三月退職)